

第6回苫小牧市行政改革推進審議会 議事録

日 時	令和元年9月17日(火) 15:00 ~ 15:30
場 所	市役所2階入札室
出席委員	石森委員、大橋委員、川島委員、小林委員、小山委員、佐藤委員、菅原委員、滝本委員、中村委員、藤田委員、山上委員 (敬称略、五十音順)
事務局	行政監理室
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 会長挨拶3 議題 新たな行政改革プランの在り方に関する答申書(案)について4 その他5 閉会

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第6回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。</p> <p>それでは、審議会の開催にあたり、石森会長より御挨拶をお願いいたします。</p>
石森会長	<p>皆様、本日は、お忙しい中、審議会に出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>本日は、事務局から、委員の皆様からの御意見をまとめた答申書の案が示されておりますので、この内容について議論していきたいと思っております。</p> <p>答申書は、本日の審議会でも内容を固め、後日、市長に提出することとなりますので、皆様には本日も忌憚のない御意見を申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、石森会長にお願いしたいと思います。</p> <p>石森会長、よろしくをお願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、議題の『新たな行政改革プランの在り方に関する答申書(案)について』に入りたいと思っております。</p> <p>各委員から提出のあった意見シートと、前回の審議会での議論を受け、事務局で答申書の案を作成していただいております。</p> <p>本日は、この答申書の案について御意見をいただき、内容を固めたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、まず、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料5-1をお願いいたします。</p> <p>委員の皆様にご提出いただいた意見シートと、前回までの審議会での議論をもとに、事務局において答申書の案を作成いたしましたので、この概要につきまして、説明させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、答申書全体の構成でございますが、表紙、目次とございまして、1ページに「はじめに」として、石森会長からの御挨拶を掲載しております。この内容につきましては、事前に会長と調整させていただいております。</p> <p>次に、2ページから8ページまでは、それぞれの項目について、前回の審議会でお配りした資料をベースに、委員の皆様から発言のあった内容などを加筆・修正する形でまとめております。</p> <p>最後に、9ページには、関係資料といたしまして、行政改革推進審</p>

議会における検討経過と審議会の委員名簿を掲載しております。

それでは、あらためまして、資料の2ページをお願いいたします。

『2 新たな行政改革プランの方向性について』といたしまして、大きく3つの事項を掲載しております。

はじめに、(1)「NEXT STAGE」の更なる進化ですが、現行の行政改革プラン－NEXT STAGE－における基本的な考え方を継承しながら、更なる進化を目指すべきという内容としております。

次に、(2)「新たな時代」へのチャレンジですが、時代や環境の変化を捉え、「行政改革」という考え方そのものを、苫小牧市の将来ビジョンを明確化した上で再構築すべき。今後も、財政の健全性と良質な市民サービスとのバランスを取りながらチャレンジを継続するため、あらゆる意味で、複合的・横断的な「行政改革」の取組が求められると掲載しております。

3ページ、(3)情報発信の強化ですが、行政改革のみならず、行政運営全般において、「見える化」から「見せる化」へと、これまで以上に市民に歩み寄る情報発信に期待するという内容としております。

続きまして、4ページをお願いいたします。

『3 新たな行政改革プランのテーマについて』といたしまして、7つの事項を掲載しております。

(1) 健全な財政運営につきましては、引き続き重要なテーマであり、今後は、費用の抑制だけでなく、新たな財源創出に向けた取組が必要であるとしております。

(2) 市民サービスの向上につきましては、市民ニーズの多様化・高度化に伴い、的確な市民サービスの提供を意識すべきであるとともに、市民の利便性向上とあわせて、電子化や自動化など、行政事務の効率化にも取り組むべきとしております。

(3) 協働の推進につきましては、市民・企業との協働を更に推進し、市民や企業が持つ力を活用するとともに、「自分たちのまち」という意識の醸成により、移住・定住の促進にもつながるとの御意見を掲載しております。

5ページをお願いいたします。

(4) 公共施設のマネジメントにつきましては、インフラを含む公共施設の老朽化という大きな課題に対し、財源確保の手法を工夫するほか、施設の統廃合や再編も含め、検討することが重要であるとしております。

(5) 民間活力の活用につきましては、今後も、民間委託・民間移

議に積極的に取り組んでいくとともに、民間資本の活用という観点からも、その手法をブラッシュアップすべきとしております。

(6) ICT技術の活用につきましては、AIをはじめとするICT技術の活用による事務の効率化と市民の利便性向上は必須であり、特に、ペーパーレス化やキャッシュレス化の検討を進めるべきとしております。

(7) 職員の人材育成と「働き方改革」、簡素で効率的な組織づくりにつきましては、行政改革の実施主体となる職員の意識改革と人材育成が重要であることから、質の高い人材育成に取り組む必要があるとしております。また、6ページには、人的資源の活用を促進し、「働き方改革」の実現を目指すほか、今後も不断の取組として、簡素で効率的な組織体制の構築を進めるべきとの御意見を掲載しております。

続きまして、7ページをお願いいたします。

『4 新たな行政改革の推進に向けて』といたしまして、4つの事項を掲載しております。

(1) 意識すべき時代認識ですが、今後の行政運営・行政改革を考えるにあたって、意識すべき時代変化のポイントについて掲載しているほか、苫小牧市の将来に希望を持つことができるよう、若い人々からの意見を聴く機会を積極的に設けるべきとしております。

(2) 内部事務の見直しですが、行政内部の事務改善的な取組につきましては、新たな行政改革プランに掲げるまでもなく、日常の業務の中で取り組むべきとしております。

(3) 取組項目の構成・スピードアップですが、新たな行政改革プランにおきましては、各テーマを再構築するとともに、取組項目の選択と集中を図るべきとするほか、5年間という計画期間にとらわれず、迅速に結論を出すことができる取組はスピード感をもって取り組むべきとしております。

(4) 行政改革推進審議会の有効活用ですが、この審議会におきまして、担当部署から直接説明を受け、行政改革の重点項目を集中的に審議するような場を設けるべきとの御意見を掲載しております。

8ページをお願いいたします。

『5 その他市政に関する事項について』といたしまして、これまでの御意見のほか、市政運営において重要な3つの事項を掲載しております。

(1) 経済活性化による歳入確保につきましては、将来を展望した場合に、歳出の抑制だけでなく、新たな歳入の創出に向けた取組が必

	<p>要である。積極的かつ独創的な企業誘致制度の検討や、起業・技術開発に対する投資などの事業創出により経済の活性化を図ることで、市の将来展望に必要な財源の確保を目指すべきとしております。</p> <p>(2) 中心市街地の活性化につきましては、苫小牧市の顔というべき駅前に活力を生み出し、まちに明るさと魅力を取り戻すため、中心市街地の活性化に積極的に取り組むべきとの御意見を掲載しております。</p> <p>(3) I R (統合型リゾート) の誘致につきましては、市民の関心度が高い一方で、多くの市民にとって想像がつかないほど大きな事業であることから、適切に判断できるよう、わかりやすく丁寧な情報発信に努めるべきとしております。</p> <p>最後に、9ページをお願いいたします。</p> <p>『6 関係資料』といたしまして、答申書の最後に、審議会におけるこれまでの検討経過と、審議会委員の名簿を掲載しております。</p> <p>以上が、答申書(案)についての説明となりますが、前回の審議会でお配りした資料の中で、具体的に取り組むべき事項としてまとめさせていただいた取組につきましては、この答申書(案)において、全てを反映できているわけではございません。</p> <p>そうした具体的な取組につきましては、答申書の内容としては掲載しておりませんが、答申書に基づく取組の提案といたしまして、各関係部署に展開させていただきたいと考えております。</p> <p>なお、この答申書につきましては、本日の審議会で審議いただき、内容を固めた後、来週・9月24日(火)に、石森会長から市長へ御提出いただく予定で考えております。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p>
石森会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、御意見、御質問ありますか。</p>
川島委員	<p>私からは、文言について3点ほどお話したいと思います。</p> <p>まず1点目は、文末表現の部分で、「何々ではないか」というものが2か所あります。どこかと言いますと、2ページの一番下の「求められるのではないか」という部分と、8ページの真ん中の「必要があるのでではないか」の部分です。</p> <p>今回は、答申でありますので、文末が疑問形というのは、少しおかしいのかなと思います。「何々と考える」や「何々が求められる」という表現のほうがよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>2点目は、8ページの小見出しが「(3) I R (統合型リゾート) 誘</p>

	<p>致」となっていますが、この表現ですと、本審議会が全面的に I R 誘致に大賛成であると誤解を招くのではないかと思います。例えば「I R 誘致に関する検証」といった表現のほうがいいのではないかと思います。</p> <p>前回の審議会でも、市民の皆さんが I R そのものを、はっきりわかっているのではないかと。I R 誘致によるプラスマイナスの両面をきちんと理解した中で、将来の苫小牧の財政運営を考えたときには、そういうことについてもより真剣に考えていかなければならないのではないかという話がありました。そういった意味では小見出しの表現を工夫したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>3点目は、7ページの「(1) 意識すべき時代認識」のところですが、文章の中に「価値評価のスパンが短期化している」と記載されています。この「価値評価のスパン」とは一体どういう意味なのか、もう少し丁寧な表現のほうがいいのではないかと思います。</p> <p>私からは以上です。</p>
石森会長	この「価値評価のスパン」について説明いただけますか。
事務局	これは、現在は時代変化が激しくなっているため、物事に対する評価をするスパンが短くなってきているといった内容の意見だったと認識しております。
石森会長	表現を工夫したほうがいいかもしれませんね。
事務局	2つ目にいただいた意見ですが、「I R に関する情報発信」といった表現でよろしいでしょうか。
石森会長	ここは、「I R (統合型リゾート) の理解の促進」というようなタイトルに変えたほうがいいのかと思います。税収増に寄与するといったメリットもありますが、デメリットもある。まずは、これを市民の皆さんが正確に理解してもらうことが大事だと思いますので、「理解の促進」といった表現のほうが審議会の答申としてはよろしいのではないのでしょうか。
菅原委員	<p>私も同じような考えで、I R の記述に関しては「誘致」という言葉は避けたほうが誤解を与えないのかと思います。</p> <p>また、最後の「市民が適切に判断できる情報発信に努めることにより、市民の安心感につなげていただきたい」というよりも、「情報発信に努めていただきたい」という表現のほうが、審議会の答申としてはいいのではと思います。</p>
石森会長	今回の答申は、新たな財源の確保というものを前面に打ち出しています。審議会でも I R のことを取り上げた理由は、I R の是非は別とし

	<p>て、この事業が新たな財源の確保に寄与する取組であるからだと思 います。</p> <p>この審議会で I R 事業の可否を判断しているわけではありませ んで、誤解のないようにするという意味で、今あった意見を取り入 れて表現を修正していただきたいと思 います。</p> <p>そのほかございますか。</p>
大橋委員	<p>細かいところになります、 I C T という英語の略字が文章の中 にありますが、 I C T は、インフォメーションアンドコミュニケー ションテクノロジー、情報通信技術の略ですので、 I C T 技術と記載し ますと、情報通信技術技術となりますので、情報通信技術という日本語 表現に修正する、または括弧書で表現するほうがいいのかと思 います。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>そのほかございますか。</p> <p>私からお諮りしたいのですけれども、 7 ページの「(2) 内部事務の 見直し」の中に、「このような取組は除外すべきと考える」となってい ますけれども、この内部事務の見直しというものを言い換えると、行 政事務の効率化という表現にもなるのではないかと思 います。そう しますと、「除外すべきと考える」という表現は、少し言い過ぎではな いかと思 います。</p> <p>行政事務の効率化については、どの時代においても、職員は常に意 識しないといけないという意味では、「除外」ではないのではないかと 思うのですが、いかがでしょうか。</p>
藤田委員	<p>私としては、この (2) の項目自体が必要ないのではないかと思 います。内部事務であろうと、外向けの事務であろうと、事務の見直し というのは今までも当たり前に行ってきたと思 いますので、そう いう意味では、ここで「除外すべきと考える」とまで言う必要はない のではないかと思 います。</p>
石森会長	<p>そうですね。行政事務の効率化というのは、職員一人一人が常に意 識しているわけですから。</p> <p>この部分については、削除してはどうかと思 いますが、いかがでし ょうか。</p>
小林委員	<p>基本的には、今後プランを策定する中で、細かすぎる取組事項が出 てきたら、そのときは除外すればいいと思 います。</p>
石森会長	<p>それではこの部分は削除でよろしいでしょうか。</p> <p>そのほか、ございますか。</p>
菅原委員	<p>4 ページの「(1) 健全な財政運営」にクラウドファンディングにつ</p>

	<p>いて記載がありますが、これは寄附や義援金のようなイメージとなるのか、それとも違う考えなのでしょうか。</p>
事務局	<p>クラウドファンディング自体は、特定の事業や目的に対して寄附を募るといえるものですので、寄附と大きく変わるものではないと考えております。</p> <p>ただ、これまで苫小牧市として、クラウドファンディング形式で、寄附を募るといった実績はありませんので、仕組み等を作っていくことは検討が必要だと考えております。</p>
石森会長	<p>そのほかございますか。</p> <p>苫小牧市は歳入増に対する取組としてネーミングライツなどいろいろ実施されていますよね。</p> <p>さきほど、トイレに行った際、広告があつて驚きました。とても記憶に残りますよ。</p>
事務局	<p>あれは、ウォッチレットと言ひまして、「見る」の「ウォッチ」と、「トイレット」を掛け合わせた造語になります。</p> <p>広報担当の若手職員が考え出しまして、今までは市役所の広報は、固い内容のものが多かったのですが、ユーモアがある内容となつていまして、市民の方からも好評をいただいています。</p>
石森会長	<p>そのほかございますか。</p> <p>皆様の意見、反映されていますでしょうか。</p> <p>先ほど、川島委員からご指摘があつた文末が疑問形の部分に関しては、すべて言い切る形に修正をお願いしたいと思います。</p> <p>そのほか、御指摘のあつた点については事務局で修正をお願いしたいと思います。</p> <p>それから、最終的な答申書の調整ですけれども、本日の議論を踏まえ、私と事務局に一任いただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
	<p>《 異議なしの声あり 》</p>
石森会長	<p>それでは、私と事務局に最終的な調整は任せていただくということで、お願いしたいと思います。</p> <p>では、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>本日御意見があつた点につきましては、答申書の内容に反映させていただきたいと思ひます。</p> <p>確定した答申書につきましては、9月24日に、石森会長から市長に提出いただく予定としておりますが、最終的な調整につきましては、先ほど会長からお話しがありましたとおり、会長に一任ということで進めさせていただきたいと思ひます。</p>

	<p>また、答申書につきましては、委員の皆様にも、後日、郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
石森会長	<p>それでは、最後に、全体を通して何かございますか。</p> <p>なければ、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>まずは、この度の答申書の作成にあたりまして、何度も審議会に御出席いただき、また、多くの貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>審議会からの答申を受け、市といたしましては、新たな行政改革プランの策定に向けた作業を加速させることとなりますが、今後も委員の皆様には、進捗状況などを随時報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、次回の審議会につきましては、11月中旬での開催を予定しております。ここでは、今年度の上半期におけるNEXT STAGEの進捗状況と、新たな行政改革プランの策定状況を御報告させていただきたいと思っております。</p> <p>日程等の詳細につきましては、時期が近くなりましたら、あらためて御案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>それでは、本日の審議会を終了いたします。ありがとうございました。</p>